

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01879

研究課題名(和文) 東アジアにおける越境的社会圏の展開と課題

研究課題名(英文) Development and Problems of the Transboundary Community in East Asia

研究代表者

山崎 健 (YAMAZAKI, Takeshi)

神戸大学・人間発達環境学研究所・教授

研究者番号：20158132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、多様な制度、文化、背景をもつ東アジアが一つの越境的社会圏を構築する可能性と課題を検討することを目的としている。東アジアで生じている共生と排除の営みについて、地域的固有性の視点から検討すべく、東アジアにおける社会圏の現状や、国民国家の在り方などについて検討した。グローバル化が進む中で生じている東アジアにおける、国家の枠組みや、人々・市民の国境を越えた移動に伴う変容の様相が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study examined the possibility and problems to build one transboundary community in East Asia. The countries of the East Asia have variety of cultures and social systems each. We investigated various problems such as poverty or the immigrant and social exclusion, in East Asia. In addition, we considered the transformation of the "nation-state" affected by such backgrounds. This study showed the notable changes of nation-states and peoples in East Asia under the globalization.

研究分野：都市地理学

キーワード：東アジア 社会圏

1. 研究開始当初の背景

I. ウォーラーステインは、東アジアを「反国家主義の拡散の波がまだ達していない唯一の地域」、「(一国単位の) 漸進的改良主義に対する幻滅がまだ生じていない唯一の地域」とみなし、それゆえにまた東アジアの共産主義政権も崩壊を免れていると述べた。

たしかに東アジアでは、一国単位の漸進的改良主義が比較的根強く生き残り、ナショナリズムや一国単位の経済成長神話が今も強い影響力をもつ。しかし同時に、東アジアにおいて、欧米・西アジア・アフリカ等とは異なる形で、国家の枠組みを越えた新たな政治・経済・社会圏が現に構築されつつあることも明らかである。こうした現実には、西欧・南北アメリカ・アフリカ等から発せられた越境的社会圏を前提とした諸理論 - P. ギルロイや A. ネグリの帝國的視座、A.G. フランクや S. アミンの従属理論、I. ウォーラーステインの世界システム論等 - だけでは十分に説明しきれない。そしてこの現実を内在的・説得的に説明しうる東アジア発の新たな社会理論は未だ提示されていない。

本研究は、政治学・経済学・社会学・人文地理学・社会政策学・開発学・社会思想等、多様な人文社会諸科学の専門家が結集し、現下の東アジアにおける越境的社会圏で生じつつある諸課題とその実践的解決の方途の解明を目指すものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアにおける越境的社会圏の実態、及びそこで生じつつある諸課題とその実践的解決の方途を、総合人文社会科学・地域研究の方法で解明することにある。

政治・経済的な「東アジア」は、従来の日中韓を中心とする極東地域から、フィリピン・ベトナム・カンボジア・インド等、より広域的な融合・交流の進展の中で、新たに拡張・再編されつつある。ASEAN 共同体(2015年発足)、及び日中韓朝の協調と対立を機軸として、近未来の東アジア社会圏は巨大な変貌期にさしかかっている。

本研究は、多様な宗教・文化、資本主義と共産主義、オリエンタリズムと歴史認識が錯綜する現下の東アジアの越境的社会圏の基底をなす固有の地域的個性、およびその歴史・社会的意義を解明することを課題とした。

3. 研究の方法

本研究は、目的を達成するため、次の4つのチームを編成して研究を推進した。

個々の国家にとどまらず、東アジアの越境的社会圏を通底する固有の論理の把握という明確な観点から研究を推進した。

(1) 東アジア社会圏における平和と安全

(リーダー：太田和宏)

米中両国のパワーバランスの変容をふまえ、東アジア各国の軍事・安全保障政策、諸国民の平和意識、国際テロ・領土問題をはじめとする政治的リスクの検証を試みた。また J. ガルトゥングが提起した「構造的暴力」論をふまえ、「積極的平和」とその構築の可能性について、主にフィリピン・中国・日本を対象として検討した。

(2) 東アジア社会圏における経済開発と空間的格差(リーダー：山崎 健)

中国・インド・日本における都市・農村の空間構造を、東アジア全域との関連で解明し、一つの越境的社会圏・産業連環としての特質を浮き彫りにすることを目指した。またその中で、地方自治体・地域社会が直面するコミュニティ・ガバナンスの再編の実態を解明する。その際、N. プレナーのリスケーリング論、A. スコットのシティ・リージョン論等の批判的検討を理論的基礎に据えた。

(3) 東アジア社会圏における労働・福祉と公共性(リーダー：岩佐卓也)

高齢者福祉、および不安定就労(出稼ぎ労働等を含む)の問題に焦点を当て、東アジアにおいて発生している諸課題の考察や、それらを改善するための政策方法論に関する政府間の交流等に注目しながら考察を行った。具体的には、日本や韓国等を中心に分析し、比較対象としてドイツ・イギリス等を主な考察対象とした。

(4) 東アジア社会圏をめぐる歴史認識と思想(リーダー：橋本直人)

オリエンタリズム・ポストコロニアリズム等、E.W. サイードの理論的知見を批判的に検討しつつ、東アジアにおける「屈折したオリエンタリズム」と現代のナショナリズムや民族紛争との関係性を解明し、新たな社会圏の構築に必要な理念と歴史認識を模索した。

本研究は、多様な制度、文化、背景を持つ東アジアが一つの越境的社会圏を構築する可能性と課題を学術的に検討することを目的としたが、東アジアで生じている共生と排除の営みについて、地域的固有性の視点から検討すべく、東アジアにおける社会圏の現状や、国民国家の在り方などについて、ヨーロッパとの比較なども踏まえながら考察するため、先述の4グループにおける研究の推進と合わせて、適宜本研究メンバーや外部の参加者もまじえた研究会を開催しながら相互の情報交流や議論を行う形式をとった。

具体的な内容は、「社会保障の視点から見た『国民国家』の意義と課題」(報告者：井口克郎) / 「移民問題に揺れるドイツ」(報告者：岩佐卓也) / 「現代の国民国家論とウェーバーの国家論との比較に向けての抜粋」(報告者：橋本直人) / 「アセアン共同体と

国民国家」(報告者:太田和宏)などである。

これらの報告を踏まえて、現代における国民国家の意義と課題に関する社会保障制度や哲学的視点による多角的考察、東アジアにおける「アセアン共同体」の設立と動向、ヨーロッパにおけるシリア難民問題など、最新の情勢を反映しながら、国民国家の課題と越境的社会圏の現状について動態的に考察を行った。

4. 研究成果

本研究は、多様な制度、文化、背景をもつ東アジアが一つの越境的社会圏を構築する可能性と課題を学術的に検討した。多様な学問分野における研究論分野研究発表等の成果を生み出すことができた。

平成 28 年度に発表した成果としては、たとえば、浅野慎一他『中国残留日本人孤児の研究:ポスト・コロナルの東アジアを生きる』は、「誕生と戦争被害」、「中国を生きる」、「肉親捜しと血統」、「永住帰国と国籍」、「日本を生きる」、「分断と絆」、「国家と越境」、「国家賠償訴訟」、「生活と社会変動・変革」の各テーマに沿って、中国残留日本人孤児の人生・生活がもつ歴史・社会的意義を、東アジアの社会変動・変革との関連で解明したものであり、高い評価を受けている。

また、澤宗則らによる学会報告「在日ネパール人のエスニックコミュニティの形成 - 在日インド人との比較考察」は、在日ネパール人のエスニックコミュニティの形成について、在日インド人との比較しながら考察したもので、越境的社会圏の具体的な事例分析である。

岩佐卓也「労働形態・労働編成からみた世界史:アンドレア・コムロジエの研究の紹介」は、世界的な労働編成とその下での各地域の労働形態を歴史的に分析したもので、越境的社会圏を理論的に考察するための基礎作業である。

平成 29 年度には、これまでの共同研究を踏まえた総括的な成果が発表された。たとえば、澤宗則『インドのグローバル化と空間的再編成』は、政治的・経済的な「東アジア」の最遠隔地たるインドでのフィールドワークをもとにグローバル化の進展と移民社会化が生み出す新たな社会構造・社会空間編成を分析することで、従来の日中韓を中心とする極東地域からフィリピン・ベトナム・カンボジア・インド等、より広域的な融合・交流の進展の中で新たに拡張・再編されつつある東アジアの越境的社会圏の変容を具体的・立体的に解明した。これは本研究の総括的な位置を占める成果の一つであり、きわめて高い評価を受けている。

また、浅野慎一「現代中国をめぐる越境的社会圏の輻輳」も、本研究の総括的な位置にある成果の一つである。この論文で浅野は、中国を対象としてグローバル化のもとで

のような越境的社会圏が形成・再編されているのかを、資本と労働から宗教・民族にまで至る幅広いスペクトルの中で解明するに成功している。

さらに、岩佐卓也「職務給・職務評価に関する諸問題」は、こうした東アジアにおける越境的社会圏の変容の中で日本における労働環境がどのように変化しているかを解明し、学術的のみならず実践的にも評価されている。

また橋本直人『『社会環境』とは何か』は、「社会環境」概念の再検討を通じて、現代の様々な社会理論と関連づけながらこうした越境的社会圏の形成・変容の過程を理論的に総括している。

このように、本研究では、東アジアにおける様々な人的移動のメカニズム、分化や宗教、価値観の伝播とそこで生じる問題、それを乗り越えようとする様々な努力等の具体像が多方面から明らかとなった。東アジアにおける人の移動(外国人労働者、移民等)等の現象は、さしあたり一国内における支配層と被支配層の関係性から引き起こされるが、そうやって生み出される過剰人口を好都合に利用しようとする他の国が存在する中で、現在、相当な規模での国境を越えた人の移動が東アジアでは生じている。またそうして他国から様々な移民や労働者を受け入れた側の国では、その国内で発生する新たな様々な問題に直面し、政府による対応が必要となってきている。

また、東アジアでは国内で同じような階級間対立や支配構造がある(類似した社会問題を抱える)政府間での、その統治方法の共有の動きがみられる。一方、市民・被支配側においても国境を越えたネットワークが様々な形で形成されてきており、重層的な支配関係とそれに対抗もしくは順応しようとする被支配層(もしくは多国間関係の中で相対的に被支配的地位にある国々といった国家レベルでの支配・従属構造の問題もある)の行動などが複雑に絡み合い、せめぎ合いながら、東アジアの越境的社会圏は形成され、常に形を変えながら展開されている。

また、東アジアにおけるそのような越境的社会圏、国家間の共同体形成の動向や各国の駆け引きは、アメリカや中国、ロシアといった大国の動向にそのあり方を左右されることも示唆された。今後も引き続きそれらの動向を視野に入れながら、ヨーロッパにおける従来の越境的社会圏の捉え方に対する批判的検討も試みるなど、地球規模の人類の越境の営みとその中で「国家」の変容、共同体の再編動向に関する考察の深化が課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

浅野 慎一「現代中国をめぐる越境的社会圏の輻輳：資本・労働・環境・市民社会・宗教・民族」日中社会学研究、25 巻、査読有、2017、1-4

浅野 慎一；佐藤 彰彦「国土のグランドデザインと地域社会：『生活圏』の危機と再発見」地域社会学会年報、29 巻、査読有、2017、5-12

南埜 猛；澤 宗則「日本におけるネパール人移民の動向」移民研究、13 巻、査読有、2017、23-48

岩佐 卓也「職務給・職務評価に関する諸問題」金属労働研究、145 巻、査読無、2017、31-35

橋本 直人「『社会環境』とは何か：社会理論に関するいくつかの批判的スケッチ」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、11 巻 1 号、2017、査読無、9-17

浅野 慎一「国土のグランドデザインと地域社会：大震災と『地方消滅』の現場から」地域社会学会年報、28 巻、査読有、2016、5-10

南埜 猛；澤 宗則「インド系移民の現状と動向 - インド政府統計による考察 - 」兵庫地理、62 巻、査読有、2017、1-18

浅野 慎一「中国残留日本人孤児は今 戦争と『戦後責任』を問い直す」ひょうご部落解放、158 号、査読無、2015、22-36

橋本 直人「マックス・ウェーバーにおける行為論の転換と貨幣論：『経済と社会』改訂に関する一考察」社会学史研究、37 巻、査読有、2015、59-74

〔学会発表〕(計 8 件)

浅野 慎一「国家と越境：中国残留日本人孤児にみるポスト・コロナルの東アジア」神戸華僑華人研究会創立 30 周年記念シンポジウム「グローバル神戸の越境力」、2017

井口 克郎「日本における介護保険制度の登場・変遷と非社会保障化の動向」佛教大学社会保障研究会日韓介護問題シンポジウム、2017

澤 宗則・南埜 猛「在日ネパール人のエスニックコミュニティの形成 - 在日インド人との比較考察」兵庫地理学協会 2016 年度夏季研究大会、2016

井口 克郎「社会保障の視点から見た『国民国家』の意義と課題」社会環境論セミナー、2015

岩佐 卓也「移民問題に揺れるドイツ」社会環境論セミナー、2015

橋本 直人「現代の国民国家論とウェーバーの国家論との比較に向けての抜粋」社会環境論セミナー、2015

太田 和宏「アセアン共同体と国民国家」社会環境論セミナー、2016

橋本 直人「テキスト・現実・個性：E. サイドとポストコロナリズムにおける文化の両義性」唯物論研究協会第 38 回大会、2015

〔図書〕(計 4 件)

澤 宗則『インドのグローバル化と空間的再編成』古今書院、2018、338

浅野 慎一；トウ 岩『中国残留日本人孤児の研究：ポスト・コロナルの東アジアを生きる』御茶の水書房、2016、535

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 健 (YAMAZAKI, Takeshi)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：20158132

(2) 研究分担者

太田 和宏 (OTA, Kazuhiro)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：00273748

岩佐 卓也 (IWASA, Takuya)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：00346230

浅野 慎一 (ASANO, Shinichi)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：40202593

岡田 章宏 (OKADA, Akihiro)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：70185429

橋本 直人 (HASHIMOTO, Naoto)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：80324896

澤 宗則 (SAWA, Munenori)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：40235453

井口 克郎 (INOKUCHI, Katsuro)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：10572480